

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 地域の関係機関等と協働した海岸動物学習プログラム作成と 運用に向けた具体的取り組み

調査研究期間：2023年4月1日（土）～2024年3月31日（日）



【調査研究の内容・目的】

- これまで地域の専門家や教育者等と協働し、茨城県の沿岸域に生息する動物を調査してきた。それらの調査で蓄積された成果と新たに得られた知見を基に、磯に生息する動物を学ぶための学習プログラムを開発する。
- 地域の関係機関等と協働して試行的に観察会を実施することによりプログラムの運用に向けた課題を知り、それらの内容を現在作成中の「茨城の磯の動物ガイド」に反映させる。
- このような活動を通して、一般の方々に海に生息する生きものを身近に感じていただき、海への興味・関心を深める機会を提供する。また、関係者間に「海の学び」に関する活発なコミュニケーションを発生させ、関係機関の連携体制の構築を確実なものとする。

1. 調査研究内容の詳細

【調査研究代表者】

- 池澤広美（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）

【調査研究分担者】

- 森野 浩（茨城大学名誉教授）
- 鴨川 充（茨城県環境アドバイザー）
- 日賀野晴彦（茨城県立麻生高等学校）
- 田中宏典（アクアワールド茨城県大洗水族館）
- 齋藤伸輔（アクアワールド茨城県大洗水族館）
- 小泉智弘（明秀学園日立高等学校）
- 中山聖子（東邦大学）
- 片山英里（公益財団法人 水産無脊椎動物研究所）
- 小松真弓（地球レーベル）
- 舟橋正隆（茨城県環境アドバイザー）

【実施計画】

- 2カ年計画 2年目

【主な調査研究対象など】

- 地域の海岸動物の画像等の収集・整理
- 地域の関連機関等と協働した磯の動物の観察会の実施
- 「茨城の磯の動物ガイド」PDF版の作成



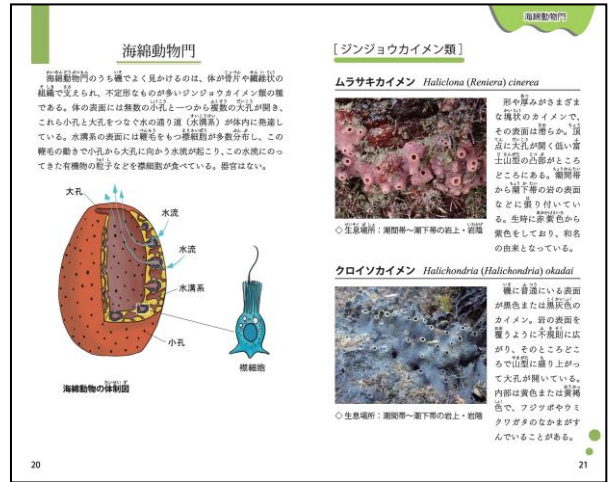
地域の海岸動物の画像等の収集・整理

ガイドブックの製作に向け、磯の動物の画像を撮影し、それらを動物群ごとに整理してクラウドによって関係者間で共有した。これらの素材は、海岸動物学習プログラム「茨城の磯の動物ガイド」での利用の他、今後、博物館や水族館等の関係機関が海に係わる展示や海洋教育の教材作りをする際にも活用することができる。また、合わせて海岸動物の標本を収集した。これらの標本は地元の海岸動物相の解明やその変化を知るのに役立つだけでなく、博物館の展示や教育普及でも活用していくことが期待できる。



地域の関連機関等と協働した磯の動物の観察会の実施

海岸動物学習プログラムの運用に向けた課題を知るため、地域の関連機関や団体等と連携し、ひたちなか市で磯の動物の観察会を試行的に3回実施した（参加者は86名）。観察会ごとに参加対象者を変えて実施したが、世代によって海やそこに生息する生きものに対する感じ方や行動に違いがあり、年齢層に合わせた効果的な観察や解説のしかたを学ぶことができた。また、観察会で得られたことを作成中のガイドブックの内容に反映させることができた。さらに、地域の関連機関や団体等と協働して開催したことで、連携体制が確実なものとなり、今後、「海の学び」に関する活発な活動を生み出すことが期待できる。



「茨城の磯の動物ガイド」PDF版の作成

編集会議を開催し、「茨城の磯の動物ガイド」PDF版を作成した。総頁数は111頁で、海綿、刺胞、扁形、軟体、環形、節足、苔虫、棘皮、脊索の9つの動物門の中から代表的な動物約120種を掲載している他、観察会のための基礎知識、観察会に向けての準備や注意、コラム等を盛り込んでいる。

今後、ガイドブックの冊子の作成を予定している。冊子が完成した際には、博物館や水族館、関係団体で開催される自然観察会等の教育普及活動での活用を通し、多くの人々に地元の海やそこに生息する生きものについての関心や理解を深める機会を提供することができる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

2. 本調査研究成果を基に計画・実施可能な 「海の学び」に繋がる博物館活動案

- 博物館活動の形態：磯の動物をテーマとした体験活動イベント
- 実施時期：2024年5、6月頃
- 実施場所：ひたちなか市の磯

【実施内容】

- 本調査研究で作成した学習プログラムを活用して、ひたちなか市の磯で磯の動物をテーマにした観察会を実施する。
- 観察会は、学習プログラム「茨城の磯の動物ガイド」の作成に関わった関係機関と共催で開催し、執筆担当者が解説者となって、各動物群の説明をしていただく。
- 学習プログラム「茨城の磯の動物ガイド」については、参加者に配布し、今後、磯の動物を学ぶための教材として活用していただく。

【他の博物館・機関や地域社会との連携や取り組み内容】

- 学習プログラム「茨城の磯の動物ガイド」については、関係機関が実施する体験活動やひたちなか市の磯をテーマに実施されるその他のイベント等で活用していただく。ひたちなか市の磯で観察会を開催する内陸の博物館でも活用していただく予定である。

■調査研究分担者の中には、地域において講演会や観察会等を通じて、環境保全に関する知識の普及・啓発を図るため、「茨城県環境アドバイザー」を委嘱されている者がいる。その活動の中でもガイドブックを地元の海の生物や環境問題を学ぶための教材として活用していただく。

- SNS やメディア等を通して、「茨城の磯の動物ガイド」を周知し、磯に興味関心のある子どもたちへ配布を行う。

【特に学校教育との連携について】

- 調査研究分担者が所属する学校の授業や部活動の中で、生徒が地域の海の生物に対する理解を深めるための教材としてガイドブックを活用していただく。
- ガイドブックの活用を希望する小中学校に配布し、授業、部活動、調査など、幅広い活動の中で学習教材として活用していただく。

【事業全体のまとめ】

本事業では、海岸動物学習プログラムを作成するため、地域の専門家や教育者等と協働し、ひたちなか市の磯に生息する動物の画像や標本を収集・整理した。また、プログラムの運用に向けた課題を知るため、地域の関係機関・団体と協働して試行的に観察会を実施した。得られた成果は現在作成中の「茨城の磯の動物ガイド」に反映させることができた。また、事業の実施を通して、地域の関係者や関係団体・機関等と連携を深めることもできた。

今後、関係機関・団体と協働し、海岸動物学習プログラムを活用した観察会を開催する予定である。今回、観察会を実際に開催して、これまで気付かなかったことが多々あったが、これらの経験を基に、観察会の進め方や海岸動物学習プログラムの活用方法を詳細に検討していきたい。引き続き、連携体制を強固にしながら、「海の学び」の活動をさらに広げ、一般の方々の海に対する興味関心や意識を高めていきたいと考えている。

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. アクアワールド茨城県大洗水族館	観察会
2. 公益財団法人 水産無脊椎動物研究所	観察会
3. 地球レーベル	観察会
4. 茨城の海産動物研究会	観察会、画像の整備、学習プログラム作成の協働作業
5.	

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. ミュージアムパーク茨城県自然博物館のウェブサイト	自然ラボ（観察会）「磯の生きものを観察しよう」募集（2023年4月）
2. 公益財団法人 水産無脊椎動物研究所のウェブサイト	令和5年度自然観察会「磯の生き物観察会 2023」募集（2023年5月）
3. 地球レーベルのウェブサイト	令和5年度自然観察会「磯の観察会 in ひたちなか平磯海岸」募集（2023年4月）
4. 公益財団法人 水産無脊椎動物研究所のウェブサイト	令和5年度自然観察会「磯の生き物観察会 2023」報告（2023年6月）
5.	

上